かわさき 図書館だより

図書館ホームページ：http://www.library.city.kawasaki.jp/

～より身近で使いやすい図書館を目指して～

2008年度から2009年度の川崎市立図書館

2008年度は7月に図書館コンピュータの入れ替えと、ホームページのリニューアルを行い、インターネットからの貸出期間延長・巻数順予約・予約順位の表示など、新しいサービスが加わりました。2009年度は今まで休館日だった第一月曜が開館になり、また新しい予約資料の受け取り館として「有馬・野川生涯学習支援施設」が加わることなどによりまして、さらに多くの方の利用が見込まれます。川崎市立図書館は、より身近で使いやすい図書館を目指して、サービスの充実を図ってまいります。

*** 2008年度に予約・貸出の多かった資料を紹介します ***

★予約の多かった資料（ベスト5）★

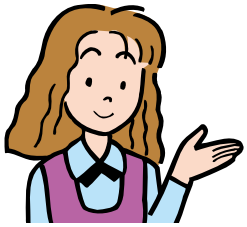
順　位	タイトル	著　者	出版社	件　数
1	ハリー・ポッターと死の秘宝 上	J.K.ローリング	静山社	2020
2	ハリー・ポッターと死の秘宝 下	J.K.ローリング	静山社	1927
3	告　白	湊かなえ	双葉社	1777
4	流星の絆	東野圭吾	講談社	1493
5	聖女の救済	東野圭吾	文藝春秋	1291

7月に出版された「ハリー・ポッター」シリーズの新刊が1位になりました。

★貸出の多かった資料（ベスト5）★

順　位	タイトル	著　者	出版社	件　数
1	誰　か	宮部みゆき	実業之日本社	1066
2	幻　夜	東野圭吾	集英社	713
3	使命と魂のリミット	東野圭吾	新潮社	704
4	ハリーポッターと不死鳥の騎士団 上	J.K.ローリング	静山社	638
5	容疑者Xの献身（探偵ガリレオ 3）	東野圭吾	文藝春秋	582

東野圭吾の作品が3作ランクイン。予約にも2作ランクインしています。
※予約・貸出ともに一般書のベスト5です。



第一月曜日が開館になりました　～2009年4月より～

2009年度より、第一月曜日が開館になりました。（菅閲覧所を除く）
皆様のご利用をお待ちしております。

旧有馬小売市場跡地に新設されました

外の光が入る明るい図書室です

新たに予約本の受け取り場所が加わりました！

「有馬・野川生涯学習支援施設」

5月に開館した「有馬・野川生涯学習支援施設」を図書館の予約本の受け取り場所に指定できます。「有馬・野川生涯学習支援施設」は図書館分館とは異なりますが、施設内に地域図書室があり、また川崎市立図書館のOPAC（館内利用者用検索機）が設置されますので、市立図書館の資料を検索・予約することができます。

≪利用の際のご注意≫

◎必ず川崎市立図書館の貸出カードをお持ちください（貸出カードを忘れると予約本の受け取りができません）

◎「有馬・野川生涯学習支援施設」では川崎市立図書館の貸出カードを作ることはできません。
また、地域図書室の本を借りるには、図書館の貸出カードとは別に、地域図書室のカードをお作りください。

We Love! KAWASAKI

このコーナーでは、川崎をもっとよく知り、もっと楽しむための本を紹介していきます。

第11回目は自然観察に関する本を集めました。工業のイメージが強い川崎ですが、自然に親しめる環境も多くあります。

第11回　～川崎で自然とふれあう～

A：『かながわの自然観察おもしろ絵日記』 佐藤恭子／著　（神奈川新聞社）

春夏秋冬の季節にそった観察絵日記。街路樹で、公園で、絵日記にでてくる植物はどれも身近で見られるものですが、あらためて観察するとなかなかの個性派ぞろい!？イラストも文も魅力的な本です。

B：『生田緑地のきのこ』【自然ガイドブック17】 菌類懇話会／編　（川崎市青少年科学館）

どのページもきのこ・きのこ・きのこ…赤いの白いの細長いの平べったいの…。掲載されている180種のきのこは、どれも生田緑地で観察されたものです。青少年科学館の「自然ガイドブック」シリーズはこの他にも昆虫・野鳥・化石など、市内で観察された動植物を写真やイラストで紹介しています。

【ムレオオイチョウタケ】
生田緑地最大級、大きくて臭いキノコです

【チシオタケ】
傷つくと血のように見える赤い液が出ます

【コウモリタケ】
コウモリが飛んでいるように見えますか？

C：『葉の裏で冬を生きぬくチョウ ウラギンシジミ10年の観察』
【わたしの研究6】 高柳芳恵／文　村山純子／絵　（偕成社）

市内にお住まいの主婦・高柳さんが10年にわたり観察しつづけたウラギンシジミの生態。ウラギンシジミは葉の裏にしがみついて越冬をします。時間をかけた観察で、越冬の他にもウラギンシジミのさなざまな生態がわかっていきます。小さな蝶の一生に命の不思議を感じます。

≪展示会のお知らせ≫

高津図書館開館80周年記念「**高津図書館80年のあゆみ**」

地域とともに歩んだ80年を回顧して写真や関連資料を展示します
＊7月17日㈮から8月7日㈮まで　高津図書館　展示室にて

「レファレンス・サービス」をぜひご利用ください！

　図書館のサービスで「レファレンス・サービス」（調べもの相談）というものがあります。研究や調査にあたって図書館を効率よくご利用いただけるよう、質問や相談を受けて資料を紹介するサービスですが、身近な調べものや本さがしにも気軽にご利用いただけます。

　地域資料（川崎の歴史や古い地図など）に関する相談が多いのですが、そのほかにも「大久保利通が主人公の小説はありますか？」といった読書相談、話のあらすじから「昔読んだ絵本なのですが、タイトルを教えてください」といったご相談もありました。

★★★ほかにはこんな事例も★★★

【利用者の方より】「神経」という言葉はいつ頃できたものですか？外国の医学が入ってきてからの言葉だと思うのですが…？

【レファレンス回答】「神経」の語源については、『日本国語大辞典』（小学館　2001年刊）の第7巻「神経」、また『日本大百科全書』（小学館　1988年刊）の第12巻「神経」の項に記載されています。

（『日本国語大辞典』より引用）「神気の経脈」の意から杉田玄白が「解体新書」の中でZenuw（オランダ語）にあてた語。

（『日本大百科全書』より引用）神経の名称は、杉田玄白が『解体新書』で初めて用いたもので、字義は神気経脈の「神」と「経」とをとって「精神の経路」という意味であった。

「神気」「経脈」については前述『日本国語大辞典』にそれぞれの項に記載されています。

「神気」（『日本国語大辞典』より引用）①万物を組成する元素。②不思議な霊気。③すぐれた趣。④心身の力。気力。活力。⑤精神。魂。心の動き。

また、『日本国語大辞典』によると「経脈」は「経絡」に同じ、とありますので、同辞典「経絡」を引用します

「経絡」（『日本国語大辞典』より引用）（「経」は動脈、「絡」は静脈の意）東洋医学で、鍼灸、手技系の基本であるつぼ（経穴）とつぼを結びつらねるすじ道。

杉田玄白、また『解体新書』についてはこちらの資料を参考にしました。

1.『解体新書　全現代語訳』（杉田玄白／［訳］　講談社学術文庫　講談社　1998年刊）
2.『杉田玄白』（片桐一男／著　吉川弘文館　1986年刊）
　※翻訳にあたって、どのように日本語をあてていったかの解説が書かれています。
3.『解剖学教室へようこそ』（養老孟司／著　筑摩書房　1993年刊）
　※99pに「神経」の翻訳について書かれています。

＊＊＊「解体新書」の翻訳にあたって杉田玄白が…。「調べもの」を通じて多くの事がわかってきます。

かわさき歴史めぐり (18)

徳川氏の関東入国と川崎市域－18－

法政大学名誉教授
村　上　　直

川崎市域に並行して流れている多摩川は、江戸時代の代表的な地誌である『新編武蔵風土記稿』には「多磨川」とありますが、当時の多くの文献には「玉川」となっています。この多摩川は、南関東では利根川・荒川に次ぐ大きな河川です。関東山地の笠取山（標高1953メートル）にある水源地の水干を発し、山地を穿入蛇行しながら流れ、上流の青梅（東京都青梅市）付近で扇状地を形成しながら一之瀬川、丹波川、多摩川、六郷川と名称を変えながら、武蔵野台地と多摩丘陵の間を縫って下り、江戸湾（東京湾）に流入しています。全長138キロメートル、流域面積1240平方キロメートルです。

徳川家康が江戸城を政治的拠点とし、幕府が開設しますと、やがて巨大都市大江戸が形成されていきました。この一大消費都市を支える物資を供給していくため、陸上の街道や脇往還による輸送と共に多摩川の水運が利用されました。多摩川は、流域の村むらの城米や年貢米の江戸への回送をはじめとして、筏流しによる材木をはじめ薪炭・砂利・肥料などの物資の輸送路にも利用され、人びとの交流や文化の伝播にも大きな役割を果たしました。しかしながら、この多摩川は利根川や荒川そして相模川などと比べますと、水運を妨げる諸条件もありました。

それは小さな出水は毎年のようにあり、周期的に洪水氾濫もありましたが、これについては詳細な調査研究が発表されています。（増渕和夫『多摩川の洪水と環境変動』平成13年）

そして、多摩川の水運を妨げた理由として、先ず日本屈指の急流であったこと、川の流量が低かったこと、そして、堰堤が多くあったことなどが挙げられています。急流であるうえに大洪水のたびに流路が変り、時には沿岸の村を二分することさえありました。そのため、宿河原・瀬田・宇奈根・等々力・野毛・沼部・丸子・古市場など両岸に同じ地名がある場合もみられます。また、毎年、晩秋から翌年の春先までは水量が少なくなり、夏から秋にかけては増水し、水量の差が激しかったことが継続的、定期的な水運の利用の障碍になりました。

つまり全体として水量の少ないことが指摘されるのです。しかも江戸時代には羽村（東京都羽村市）の堰から下流には大小46の堰があり、これらの堰が灌漑用水や水車を稼働するために水を引くので、一層水位を下げ、水量を少なくすることになったのです。そのため多摩川は浅瀬が多いともいわれています。（平野順治『多摩川の筏流し』平成20年）。

夏休みは図書館へGO！

夏休みは図書館に「おたすけ隊」が登場します！！

「この本を探してるんだけど…」「自由研究のヒントになるような本はないかな？」「きのう捕まえた虫の名前を調べたい！」などなど、みんなの「読みたい」「知りたい」「調べたい」を図書館の職員がお手伝いします。

夏休み期間中、胸に黄色いバッジをつけた職員が図書館（分館・閲覧所を除く）の児童コーナーに出ています。

みんなの本さがしをお手伝いしますので、気軽に声をかけてくださいね。

【胸に黄色いバッジをつけています！】

編集・発行　川崎市立中原図書館　〒211-0063 川崎市中原区小杉町3-417　TEL044-722-4932

川崎市立図書館：

川崎図書館(200-7011)	高津図書館(822-2413)	麻生図書館(951-1305)	大師分館(266-3550)	橘　分館(788-1531)
幸　図書館(541-3915)	宮前図書館(888-3918)		田島分館(333-9120)	柿生分館(986-6470)
中原図書館(722-4932)	多摩図書館(935-3400)		日吉分館(587-1491)	菅閲覧所(946-3271)